

KΕ-JOU

沖縄県立芸術大学広報誌「開鐘」第18号



開鐘 (KAN-KO)

開鐘とは、琉球王国時代に三線の名器に与えられた尊称です。その由来は、夜明けのあけむつ（午前六時）につく寺の「百八の鐘」のことを開静鐘といつたことからとされています。

その音色ははるかかなたまでよく響きわたり、聴く者を魅了し、共鳴させたようです。

沖縄県立芸術大学は今年で開学三十周年…開鐘のごとく沖縄の未来を切り拓き、世界に向かって飛躍していく拠点になることを願い、「開鐘」というタイトルにしました。

二〇一六年。「開鐘」初となる対談を開催し、お二人のお話を伺いました。



比嘉 康春 沖縄県立芸術大学長

『つくる、つなげる』

花城 良廣 沖縄美ら島財團理事長

(花城) 「一般財団法人 沖縄美ら島財團」は、一九七六年に設立され、「財団法人 海洋博覧会記念公園管理財團」が設立されたのが前身となります。ちょうどその前年には、海をテーマにした「沖縄国際海洋博覧会」が開催され、会場跡地を国営公園として整備することとなり、設立されたのが始まりです。以降四〇年に渡り、国営公園の管理運営、亜熱帯性動植物や海洋文化、首里城の歴史文化に関する調査研究、普及啓蒙等の事業を行っています。そして二〇一二年十月に現在の名称となりました。

「美(ちゅ)らなる島の輝き」を御万人(うまんちゅ)へ」を理念として、沖縄の豊かな自然、歴史、文化など「美ら島の輝き」を守り、育み、みなさまへ、そして未来へとつなげていきます。当財団では年頭にテーマを掲げ、今年は「創造」とし、新しい時代に向け何ができるか常に考え、自ら挑戦し事業に取り組んでいます。最近の事業では、普及啓蒙事業の一環として、人材育成に繋げようと、昨年七月に名護市の旧嘉陽小学校跡地に美ら島自然学校を開校し、児童生徒の体験学習や研究活動の支援、親子で楽しめる自然学習などを実行しています。

首里の地に沖縄県立芸術大学と首里城公園をお隣同志・…ご縁があつて包括的連携を行いました。

(比嘉) もつと早く行うべきでした(笑)。貴財団とは、包括的連携以前から首里城公園において琉球芸能専攻の教員や学生たちが、新春の宴・中秋の宴に出演したり、洋楽系・琉球古典音楽の学生たちによる「おきげい出前コンサートシリーズ」を二〇一三年度から企画させて頂きました。その翌年、二〇一四年十一月に包括的連携を行い、今後も更なる企画が楽しみです。

我々のノウハウを活かし、連携によって多様なニーズに応えることができ、地域の活性化にも繋がっていくことを願います。それらは、御冠船踊り(おかんせんおどり)の演舞再現だけではなく、「うとういむち」(おもてなし)を含めた総合演出を再現することもできればと思います。

二〇一六年一月には、沖縄県立博物館・美術館で開催した美術工芸学部卒業・修了作品展に於いて、「沖縄美ら島財團理事長賞」を設けて頂き大変感謝いたします。学生たちの名誉となる賞となり、作品制作に意欲が増すと思います。

(花城) 私としても、包括的連携がやっと実現できたという思いです(笑)。

また、地球の温暖化、生態系への影響など様々な環境問題への対応、沖縄の自然環境、歴史文化を活かした新たな観光の産業振興、地域との連携、公園利用者のニーズの多様化等に対応した公園の管理運営など、様々な課題が取り上げられています。これらの課題に応えるべく、環境問題への取り組み、産業振興へ及事業を拡充・推進し、更なる社会への貢献を行っていきます。

(比嘉) 「沖縄県立芸術大学」は、一九八六年に開学しました。大学設置に向けて、当時の西銘順治沖縄県知事の熱き想いがあります。それは、沖縄のアイデンティティーとして「沖縄の明日を作るためには、まずは人づくり。これまで沖縄文化の基盤をなしてきたのは伝統芸術であるから、これを創造的に育成する芸術大学を県立として発足したい」という意思が開学に繋がりました。そして、「沖縄文化の個性の美と人類普遍の美を追究する」ことを建学の理念に掲げ、琉球王府時代の文化芸術の拠点であった首里城の麓に設置されました。伝統工芸・伝統芸能だけではなく、世界の普遍的なもの、いわゆる西洋系の美術・音楽を含めた総合芸術大学として理念と精通しています。

比嘉 康春(ひが やすはる)

一九五三年(昭和二十八年)生まれ。

沖縄県東村出身。
沖縄県立芸術大学 第七代学長。

国指定重要無形文化財「沖縄伝統舞踊三線」保持者。主な著作等活動に、比嘉康春監修・歌三線「琉球舞踊曲集野村流」の〇六枚組、比嘉康春独唱集「かりゆしの古典」「流麗(昔節)」「をどり曲急の人」CD三枚組のリリースがある。

美しいものをみたり、感じたりすると、心が嬉しくなる。
首里の地にはそのような“美”が溢れています。



そのほか有形といえば、首里城公園内で最大なものは正殿ですが、首里城の塗り替えのために漆塗装を再現するにあたり、専門家の方々の議論や検討を重ねてきました。また、沖縄を含めた太平洋地域の海洋文化について工芸品や音楽に関する調査研究に取り組み、それを普及啓発につなげたいと考えています。これからも

これからの首里・これからの美。首里の地はどうなっていると思いますか？

ぜひ今後とも県立芸大との連携をお願いいたします。

(花城) 二〇〇年後、三〇〇年後…首里城はますます輝いていると思います。そこに県立芸大があることで歴史文化の保全・研究が進み、世界へ発信する中心地が生まれます。都市景観も考慮しながら、首里城と県立芸大を中心に、さらに首里のまちのつながり、一つの流れとなり、王朝時代を彷彿とさせる姿になってほしいと存ります。

今年、首里城限定商品パッケージコンペを開催して、芸大の学生たちのアイデアが形になりました。学生が首里城に関わり、将来は豊かなアイデアで起業し、県立芸大の周辺で芸能や工芸を扱うお店が集まる、まちの活性化にもつながると思います。

実は私は笛がとても好きで、旅に出ると必ず楽器店を訪ね、世界中の笛を集めています。それも音楽大学の近くにある楽器店へ。そうすると、多少値段が高くても信頼できる上質の笛を手にすることができます。このように、首里でしか手に入らない、生活に身近で上質な品々が集まり、そこに入々が集まることで、首里が琉球の歴史文化の拠点として、ひいては経済的、観光産業にも貢献できると思います。

今回は「つくる、つなげる」をテーマにお二人のお話を伺いました。

これからどんな「もの」がつくれるか…

それが人と人とをつなげる素材になればいいですね。



美術工芸学部4年（彫刻専攻）

西尾 祐馬（にしお ゆうま）

<http://yuma-nishio.strikingly.com/>



音楽芸術研究科1年（大学院 音楽学専修）

杉森 咲野（すぎもり さくや）

「生きる」とは何ですか
「紋切り型の観光地」として、首里城を中心につつてあったであろう古の景観の復元だけでなく、琉球王朝時代に首里が教育と文化の中心であったように、表面的な沖縄ではなく、琉球・沖縄の文化を次世代に継承し、更新していく地であつてほしいと思います。

「首里の地」はどうあつてほしいですか

「首里の地は、昔から様々な人々が行き来し、文化や芸能を育んできました。それらをただ守り伝えるのではなく、私たちがより深い専門性を身に付けることにより、より多くの人々が「芸術」を求めてくる…そんな地であつてほしいと思います。

「美しい」と感じるとき
「専門に取り組む顔」。たわいもない会話をしていても、一度自分の専門の話になると凛とした顔に切り替わる瞬間を「美しい」と感じます。それは、様々な感情が入り交じる（舞台）裏を知る者の特権だと思います。

「首里の地」はどうあつてほしいですか

首里の地は、昔から様々な人々が行き来し、文化や芸能を育んできました。それらをただ守り伝えるのではなく、私たちがより深い専門性を身に付けることにより、より多くの人々が「芸術」を求めてくる…そんな地であつてほしいと思います。

- 沖縄県立芸術大学開学三十周年
主な記念事業
- 記念式典 記念演奏会
 - 三十周年記念論文集発行
 - 三十周年記念誌発行
 - 芸大の御宝展（ハワイ）
 - 美術工芸学部教員展
 - 三十周年特別演奏会
- 《交響的断章 Sui-gushikku》
● 『世界で活躍する卒業生』
● 『繋がる芸能～沖縄・台湾・ジャワ・パリ～』

沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

2016年5月15日発行



<http://www.okigei.ac.jp>

googlemap





つくる、つなげる30年。

沖縄県立芸術大学は、二〇一六年
に開学三十周年を迎えます。

一九八六年の開学から今日までに
三千三百余名の人材を輩出し、沖縄
の豊かな芸術文化の伝統を受け継
ぎ、新しい創造的芸術文化の形成及
び発展を担ってきました。

これからも社会の要請に応える芸
術大学の創出に、一丸となつて邁進
してまいります。